

基本理念

豊中市の中核病院として
「心温かな信頼される医療」
を提供します。

基本方針

1. 患者さんの立場に立った心温かな病院をめざします。
2. 地域の中核病院として安全で質の高い医療を提供します。
3. 医療機関との連携を密にし、市民の健康を守るために努力します。
4. 高齢化社会に対応する医療を推進します。
5. 医療従事者の教育・研修の充実を図ります。

病院だより

TOYONAKA MUNICIPAL HOSPITAL NEWS

とよなか 特集号

地域医療連携にご理解とご協力を

体調に異変を生じ医師の診察の必要があるときには、
まずは身近な「かかりつけ医」を受診しましょう。
地域医療連携にご理解とご協力をお願いします。



はじめに

市立豊中病院（以下、豊中病院）は、地域の中核病院として、「心温かな信頼される医療」の提供を基本理念とし、患者さんに満足いただけるよう日々診療に取り組んでいます。

豊中病院は市民の命と健康を守る良きパートナーとしてあり続けるため、病院運営の健全化を進めており、今回の「病院だより」では、当院の現状をお知らせするとともに、地域で必要な医療の確保について、下記の視点で考えてみたいと思います。

- ① 医療資源の不足
- ② 地域医療の安定的確保
- ③ 役割分担と連携
- ④ かかりつけ医
- ⑤ 市立豊中病院の役割

1346人とは

この数字は、豊中病院の1日当たりの平均外来患者数です。（平成20年11月現在）

また、この外来患者数には、1日平均61人の救急患者数も含まれており、豊中病院では、一般診療だけでなく、夜間や休日の救急診療にも多くの方が受診されます。

地域との医療連携も進み、外来患者数は減少傾向にありますが、依然として予約なしで多くの患者さんが来院されており、待ち時間の短縮と十分な診療時間の確保が課題となっています。



必要な医師は確保できているのか

現在、医師不足や看護師不足が大きな社会問題となっています。

豊中病院も例外ではなく、「産婦人科」・「小児科」・

「麻酔科」・「救急科」で特に医師の確保ができず、夜間の救急診療など診療体制にも少なからず影響が出てきております。